

第33号 35円

昭和49年 1月25日

内容

国連の28年.....	1
理事会.....	2
記念券金報告.....	2
野外集会場の竣工を祝う.....	3
アメリカの大学を視る.....	4
第3回国際学生セミナー.....	5
利用者グループ点描.....	6
千人会.....	7
大学共同セミナー.....	8, 9
業務通信・利用状況.....	10

セミナー・ハウス

SEMINAR HOUSE NEWS

発行
財団法人 大学セミナー・ハウス
《所在地》
東京都八王子市下柚木
(☎ 192-03)
電話 0426-76-8511~3
《東京事務所》
東京都中央区日本橋本町 3の3
三井銀行本町支店ビル5階
電話 東京 (241) 3961
振替口座 東京 74590番
編集・発行人 飯田宗一郎
製作 中央公論事業出版

とも遅れた国が世界に二五あるが、うち一六がアフリカにある。中南米諸国はこれより上だが、アメリカ、カナダなどの生活格差はそれ以上に大きく、新興諸国と同じ歩調をとることが多い。この結果アジアやアフリカを中心に南側の立場で動く国々が約百あるこ

国際連合は、一九四五年一〇月二四日に成立。第一回総会が一九四六年一月一〇日、加盟国五一ヶ国の代表が参加してロンドンで開かれ、それから二八年が過ぎた。国連ができた当初数年、加盟国の八割以上が、対立するアメリカ陣営、ソ連陣営に属するにいたった。米ソ分裂の状態が国連を支配した。しかし国連の後半、一九六〇年ごろからは、急速に政治的には非同盟中立的な、経済的には開発途上国の植民地独立国が増加し約七〇国が加盟するにいたった。

南北問題について見ると、これらの国々には中国や日本なども含めて、大國から新たに支配されないよう、やっと手にした独立を何よりも大事にしている。もともと国連憲章には、人民の自決とか主権平等とか、これらの国が頼りにする原則が見出される。

アメリカやカナダあるいは西歐諸国の国民が、一人当り一年に四千ドルないしそれに近い生活をしているのに、アフリカ諸国の人の多くは年に百ドルにも満たず、文字すら知らないような生活をしている。開発途上国のなかでもっとも遅れた国が世界に二五あるが、うち一六がアフリカにある。中南米諸国はこれより上だが、アメリカ、カナダなどの生活格差はそれ以上に大きく、新興諸国と同じ歩調をとることが多い。この結果アジアやアフリカを中心に南側の立場で動く国々が約百あるこ

ととなる。経済的には後進国にちながない中国も同じ側に立つ。つまり、世界人口の大半、二七億位が南ということになる。南の国家群の出現は二〇世紀後半だが、その前、二〇世紀前半には社会主義国家群が出現した。歴史をかえりみると、専制君主政治が一八〜一九世紀にかけて崩れ、西歐を中心に民主政治が確立した。国民は基本的な権利を保障され、政治にも参加を認められた。経済的には私有財産、また取引契約の自由が認められ、資本主義が發展した。だが、そこで二つの問

問題を生じた。一九世紀後半から大規模化した工場とともに發展した資本主義の下で、労働者と資本家との大きな階層が生じ、社会・労働問題が出てきた。各国に工場法的に展開する。他方、そういう国は發展の過程でアフリカからアジアにかけて競って植民地を獲得し支配する。その争いは彼らを帝国主義戦争に駆り立てた。

国連の当面する課題
東京大学教授 高野雄一



そして平和との矛盾である。第一に各国の国内的対外的發展の不均衡とまさつの過程に世界戦争が生じ、立ち遅れた国は政治革命・社会革命で対応せざるをえなかった。第一次大戦中、まずソ連に社会主義革命が勃発し、第二次大戦後東欧や中国にそれがひろがった。社会主義国家群は中ソ同盟や東欧のワルソー同盟を軸として、西歐、米大陸、極東にわたって築かれたアメリカを核とする資本主義自由主義の陣営に対抗した。東西問題である。これが戦後の国際政治、そして国連を支配した。平和はど

国連の28年
国連の当面する課題
東京大学教授 高野雄一

国連憲章には非自治制度あるいは信託統治制度がある。これは西歐の發展と共に出現した植民地制度の矛盾に対処するものだ。植民地支配の西欧民主主義との矛盾、

うしたら保たれるか、世界と人類の最大の関心事であった。第二に西欧列國が掲げる民主主義と彼らによる植民地人民の支配、差別である。法的に政治的に、人権は等しくないか。経済社会生活の大きな差別が公然と認められてよいのだらうか。人権は本国の住民にも植民地の住民にも、また先進國の国民にも後進國の国民にも、国の内外を通じて人間に等しく普遍的に認められるべきもので、それが民主主義の要である。国連ができた三年目の総会は人権総会といわれ、一九四八年一月二〇日、世

界人権宣言を採択した。国連における平和の問題について二つのことが指摘される。一つは、従来と違って集团的安全保障で平和維持をはかる。国連の加盟國は、一九世紀までのように主權國家としていざというときは自由に戦争をしてよいわけではない。軍備とか同盟についても、自由勝手ではなくなった。戦争は、国連の下で許されず、また戦時下に自國だけ中立でいるという自由もない。時には国連の決議に基づき、他國を援助し、さらには他國と一緒に侵略國を抑えなくてはならない。しかし、戦争をふせぐ制度が対症療法的に立派になるだけでは真の平和は望めない。もう一つの面、今度の戦争でドイツや日本に見られるように、民主政治が未発達で、国民の経済的・社会的・文化的的生活が後まわしにされ、軍事的優先の國から平和が破れていく。人権とか経済・社会生活を各國の国内法や政治に任せておくことはそれ自体不十分だけでなく、平和を固めるために問題だ。従って国連は人権、経済社会生活のよ

うな問題を捉えて加盟各國が國際的に守り、達成すべき基準を設定し、それを國際法とし、國際政治で確保し実現しようとしている。平和の基礎である東西問題は、南北問題の克服の上に、真の解決が得られる。

「第64回大学共同セミナー」(全体講義の概要、文責編集者)

「第64回大学共同セミナー」(全体講義の概要、文責編集者)

「第64回大学共同セミナー」(全体講義の概要、文責編集者)

「第64回大学共同セミナー」(全体講義の概要、文責編集者)

「第64回大学共同セミナー」(全体講義の概要、文責編集者)

「第64回大学共同セミナー」(全体講義の概要、文責編集者)

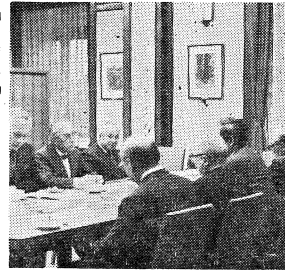
理事会

昭和四十九年度予算編成方針

一、五九〇万の増収策を議する

▼職員待遇改善費 五六〇万円

▼物件費の自然増 一、〇三〇万円



法人の財政を審議する理事会風景

たこと、一月一日に別記のとおり野外集会場の落成式を行なったことなどを報告する。

なお諸物価値上がりに対処して当然考慮しなければならぬベイス・アップの問題について慎重に審議し、少なくとも一七％程度を目標にした所要財源の確保についてあらゆる角度から検討を加えた。そのため四年間据えおきになっている会員校の会費についても値上げせざるをえないこと、また電気、重油、洗濯などの物件費の値上がり、建物の改修費、マイクロバスの新調費、事業に伴う諸経費などを検討して、宿泊料の値上げもしなければならぬことなどを詳しい資料に基づいて説明した。

【出席者】

加藤六美、山内恭彦、中村哲、鈴木勝、正田建次郎、清水文彦、飯田宗一郎

【主なる議案】

- 一、協力会員校会費の改訂
- 二、利用者宿泊料の改訂
- 三、非会員校の施設使用料の改訂
- 四、食費の改訂
- 五、ベイス・アップの財源
- 六、物件費の増額
- 七、諸手当の改訂

専務理事から昭和四八年度予算の収入・支出の現状を報告し、予定どおりの収入見込みがあるので年末賞与二・五ヶ月を支給し、その外にインフレ手当を含めたり、日頃の勤勉に対する慰労、いくらかでも給与を増額したいという具体的な臨時の手当という意味も含めて、一律五万円を支給したこと、開館七周年記念募金事務が終了し

48. 12. 17 昭和銀行 クラブにて

開館五周年および七周年記念募金個人寄付者に対する感謝の報告

前号(第三二号)によって募金の最終結果をご報告いたしました。今回は、そのうちの個人寄付をいただいた方々のお名前を記して、あらためて感謝の意を表します。(昭和45年7月~昭和49年1月)

5,000円	早稲田大学助教授	長谷川幸男殿	10,000円	国際基督教大学元学長	鶴飼信成殿
5,000円	京都大学化学研究所長	水渡英二殿	100,000円	早稲田大学助教授	乾 崇夫殿
5,000円	順天堂大学教授	山本幹夫殿	14,270円	早稲田大学助教授	山内恭彦殿
5,000円	東京大学助教授	山田圭一殿	3,500円	早稲田大学助教授	立教大学教授
5,000円	東洋電機製作所社員	馬場孝悦殿	2,000円	早稲田大学助教授	神島二郎殿
5,000円	日本電気社員	飯泉 信殿	10,000円	早稲田大学助教授	小泉一郎、小堀孟、猪野保殿
5,000円	東京学芸大学教授	太田善磨殿	5,000円	早稲田大学助教授	三井銀行経営相談所
5,000円	早稲田大学助教授	子安美和子殿	5,000円	早稲田大学助教授	三井銀行経営相談所
5,000円	東京大学講師	有賀 弘殿	10,000円	早稲田大学助教授	田村電気製作所相模原事務所
5,000円	明治学院大学教授	和田昌衛殿	5,000円	早稲田大学助教授	三多摩燃料殿
5,000円	独協大学助教授	中島文夫殿	2,000円	早稲田大学助教授	八王子市議会議員
5,000円	興和会右田病院院長	松本樺太殿	5,000円	早稲田大学助教授	仲野電気製作所
5,000円	日本女子大学教授	遠藤卓夫殿	5,000円	早稲田大学助教授	日本産業心理劇協会
5,000円	東北電力名誉相談役	内ヶ崎賢五郎殿	5,000円	早稲田大学助教授	山梨英和短期大学学長
5,000円	東京大学助教授	橋本 徹殿	5,000円	早稲田大学助教授	清水燃料木材
5,000円	神奈川大学助教授	田村 献殿	5,000円	早稲田大学助教授	ラボ教育センター
5,000円	横浜国立大学教授	武藤義夫殿	5,000円	早稲田大学助教授	サンエス・クリナー代表
10,000円、10,000円、10,000円	フレンズ児童センター総主事	桐生富久殿	5,000円	早稲田大学助教授	詩人
5,000円	熊本大学学長	黒田正己殿	10,000円	早稲田大学助教授	白梅学園女子短期大学教授
5,000円	東京医科大学講師	小林恭子殿	5,000円	早稲田大学助教授	元セミナー・ハウス職員
5,000円	法政大学教授	益田勝美殿	5,000円	早稲田大学助教授	新田敏美、五味護殿
5,000円	一橋大学名誉教授	石田竜次郎殿	5,000円	早稲田大学助教授	東京女子大学学長
5,000円	成蹊大学教授	宇野重昭殿	100,000円	早稲田大学助教授	フレンズ・センター
5,000円、3,000円	ワシントン大学研究生	海老沢克之殿	1,000円	早稲田大学助教授	文部省事務次官
5,000円	東京工業大学前学長	加藤六美殿	10,000円	早稲田大学助教授	三井銀行相談役
5,000円	広島大学学長	飯島宗一殿	5,000円	早稲田大学助教授	三井銀行信用銀行社員
1,000円	東京女子大学学長	樋口美智恵殿	5,000円	早稲田大学助教授	日本長期信用銀行職員
5,000円	東京女子大学職員	伊藤香世子殿	5,000円	早稲田大学助教授	三井銀行相談役
10,000円	森戸辰男、富仁子殿		5,000円	早稲田大学助教授	佐藤喜一郎殿
				早稲田大学助教授	藤本 紘殿
				早稲田大学助教授	豊島広司殿
				早稲田大学助教授	富永健一殿
				早稲田大学助教授	伊藤隆吉殿
				早稲田大学助教授	羽田三郎殿

●ほかに、匿名、大学共同セミナー参加者、募金箱等の寄付金を合計三六、六一五円いただきました。

OPEN AIR THEATER

野外集会場の竣工を祝う

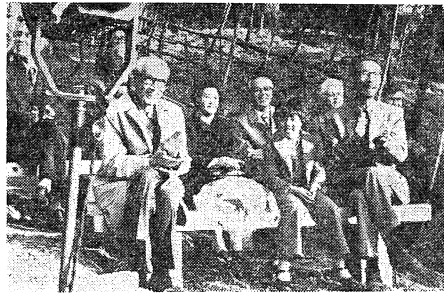
劇と音楽でこけら落し

昭和四八年二月一日

OPEN AIR THEATER

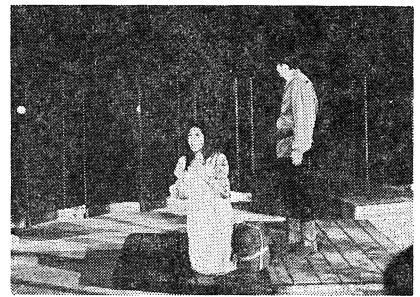
昭和四七年の当法人創立一〇周年、開館七周年の記念事業の一環として計画され、工事が進められてきた野外集会場が完成の運びとなり、その落成を祝うこけら落しのプログラムが、このほどにぎやかに上演された。

当日は冬には珍らしく風もなく、温い日和に恵まれ、在泊者ともども約三〇〇人の参加者を迎える盛況であった。日本育英会の緒方会長、日本私学振興財団の時子山理事長のお姿も見える。ご家族連れのお客様も多く、アジア財団のステュアート氏ご夫妻、東京工



観客席の山内、内藤、ステュアート、吉阪の諸先生

大の内藤正先生ご夫妻、また地元の小中学校、青年の家などからもご来会いただくことができた。定刻の午後二時河田喬夫課長が司会者として開会を述べ、まず山内恭彦先生によって紅白のテープに鉄が入られ、めでたく開場、つづいて祭壇が設けられたステージでは、当法人役員、施工者・清水建設の関係者、そして観客席も全員起立するなかでお祝いの神事が執り行なわれた。荘重に祭文を奏する土田美芳神官は、セミナー・ハウス最古参の職員、率先して演技のレパトリーの一つを受け持つふうでもある。加藤理事長、飯田専務理事、吉阪隆正早大教授からは、こども竣工の挨拶とよろこびが述べられたが、この間、学生からお祝いの気持を表わしたいとの申し出があり、計画の立案と具体化にあたった飯田専務理事、設計者吉阪隆正先生、工事担当者の清水建設現場主任松幸一氏に美しいバラの花束が贈呈された。二時三〇分、開演——司会は、当ハウス側から、順天堂大学体育学部学生・内海勉君に引き継がれ、プログラムは「祝いの詞章」

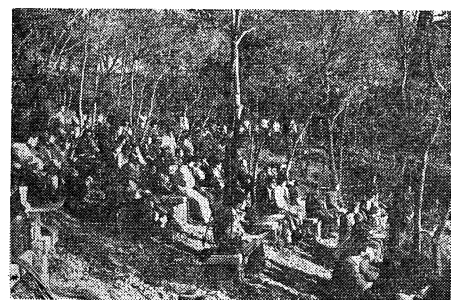


ロミオとジュリエット

山内先生が再び進行を先導され、謡曲「松蟲」を披露されたが、恋慕物の選曲は、フィナーレの悲恋のシエクスピア劇への起承転結を考えてくださったものであらうか。プログラム二番目は「祝いの太鼓」で地元大沢の小沢昌義君が、賛助出演される。つぎに上智大学のザビエル・ガラルダ先生がギターをかかえて登場、観衆に合の手を入れることを求められ、軽快に会場の雰囲気作りをされる。臨床に應用する向きもあるというが順天堂大学の医学部学生・矢ヶ崎喜三郎、横山真和両君の「手品」も、なかなか堂に入った腕前であった。



ステージ風景。カンタータ=人よ、彼さきに汝に告げたり



パンチ風景。満席のお客様——よく笑う

午後三時三〇分、スタンバイ——第二部は、まず東京芸術大学のバス・ハカンタータクラブが、磯山隆君他二十数名の編成で、カンタータ第四五番「人よ、彼さきに汝に告げたり」を聴かせてくれる。このような本格的なグループを招いて、演奏会を恒例的に開催したらどうか、音響の効果もすばらしいとの提案が、二、三にとどまらず寄せられ、プログラムの成功を喜んで、一方、つぎの劇「ロミオとジュリエット」では、進行を急ぐ司会者に苦しい注文がとどく。舞台の照明をいやすため開幕を日没まで待ってほしいとのこと。前日から泊り込んで準備の万全を期している熱心さにほだされ時間を調整したが、薄暮、舞台両袖のかがりに火がともされ、折から澄みきった寒天にかかる弦月を自然の大道具とした演出は、まさにオーブン・エアリー・シアターならではの効果、ブレイヤリーの熱演とあいまって夜気とともにクライマックスに向かう。この学習院大学シエクスピア研究会を指導されている児玉久雄先生やスタッフを代表して渡辺幸俊君にも舞台にあがってもらい、終演が告げられるまで、観客席は帰る人もほとんどなく、それでもさすがに胸震いを抑えながらの一時間であった。

この後、食堂に用意した軽食と暖房をご馳走に、祝賀のパーティを催し、適宜、参加をお誘いして会を閉じたが、歓を尽くし、ようやく会場から人影が絶えたのは、七時前後でもあったらうか。

年末のセミナー・ハウスに好日をつくってくださった出演の方、ご参会のみなさまのご協力に感謝するとともに、これを機会にこの野外施設を珍重され、存分に利用くださることを心から願うものである。

かねてから私はアメリカの大学をみたいと思っていた。終戦後の日本の大学制度の改革に大きな影響を与えたのはアメリカの大学制度であったからである。アジア財団の日本代表スチュアート氏は私の願望を察知され、今回の旅行を実現して下さいたのである。

私は昭和四八年一月一日に羽田を発ち、首都ワシントンを経て二五日間の日程を完了しサンフランシスコ空港を飛びたつて一月一日無事帰国した。

大学は二〇校、教育文化機関は一〇ヶ所を訪ね、大学教育の実態を視たり、国際交流の今後の方向について相互に意見を交わした。当初は一人旅を覚悟していたが、英国留学を終えて帰国の途中にあった娘とワシントンで合流し、お互いに便宜を提供し得たのは望外の幸せであった。以下は今回の旅行を通じて感じた印象記である。

◇美しいキャンパス

おしなべてアメリカの大学は自然の中にあるから、そのキャンパスは広く樹木が多い。キャンパスはラテン語でFieldを意味するというから、文字どおり校庭は園生であり、学生教育の場になっている。大学教育の主役は広大な自然にはぐくまれた美しいキャンパスであるといつてよい。しかも私が訪れたのは紅葉が特に美しいという秋であったから、黄色に色づいたメープルの大樹の間から時々リスが姿を現わす広いキャンパスは

ことのほか美しかった。アメリカ最古の大学ハーヴァードも、クエーカー系の小さな一流大学ハーヴァフォードもこうした環境の中に伝統の香りをただよわせている。典型的な大学街にあるプリンストンと西部の広大な自然の中にいるスタンフォードはともに一流大学であるが、キャンパスの美しいことで特に名高い。

◇国際協力会員校

コルゲート大学訪問
ハミルトンはニュー・イングラ

アメリカの大学を視る

——アジア財団招待の旅——



カリフォルニア大学国際ハウス前で

ンドの丘陵地にある田舎町である。そこにわがセミナー・ハウス唯一の国際協力会員校コルゲートがある。学生数は約二千人。全寮制の程度の高い大学である。昨夏はパッシュ教授夫妻が、今夏はス

ワン教授夫妻が学生十数名とともに来日され、長期滞在されたのが機縁となって交わりを深めている友好大学である。顔なじみの学生たちが歓迎パーティを開いてくれたり、静かな雨の夜を立派なゲスト・ハウスで過ごしたり、心温いもてなしは忘れ難い。

◇国際学生会館の在り方

アメリカは人種の多い国である。概して大学には国際的雰囲気がある。大学の寮は男女、国籍の別なく学生を入れていく。しかし

専務理事 飯田 宗一郎

一方で特別な目的を持った国際交流ハウスがある。

スタンフォード大学のハマン・ルド・ハウスは収容力二六人であるが、男女半ずつ、米国人と外国人も半数ずつ住んでいる国際学生会館である。料理も清掃も学生の手によるCo-operative Systemで運営されている。

パークレーのカリフォルニア大学には収容力五〇〇人の立派な施設 International House があり、米国人と外国人の男女学生が豊富なプログラムで生活している。館長の俸給は大学と館で折半というのも妙味ある運営というべきか。

◇夜間も開館する図書館

マサチューセッツの北のはてに同志社の創立者新島襄や内村鑑三の母校アマースト大学がある。ウオード学長の歓迎をうけることによって私のアマースト訪問の宿望は果たした。日曜の夕方構内を散歩したが、図書館だけが開いていた。学生の姿が見えた。毎夜二時まで開館との由。シラキュース大学図書館を訪ねたのは普段の曜日であったが、やはり夜であった。コネル大学図書館では年間開館予定表によって夜も開館していることを知った。これこそが大学図書館の機能だったのである。

◇大学間の連帯意識

講義の相互乗り入れ、海外からの受け入れ、海外への送り出しなどを共同して計画し、実行するため地域的なグループ化が進んでいる。協力体制が効果をあげている。

Great Lakes Colleges Association — インディアナ州のアーラム大学など一二大学をもって構成している。

Consortium For American Studies United States — 一エーヨーク大学など七大学で構成しているが、一大学と契約すれば七大学に有効である。日本からの受け入れに積極的である。

その他 Washington D.C. にあるジョージ・ワシントン大学など五大学で日本研究グループをつくることか、ダートマス・アマーストなど五大学で相互乗り入れが進んで

いる。単位互換のよい実例である。

◇行動科学高等研究所

広大なスタンフォード大学の西隅の小さい丘に、わがセミナー・ハウスの構想によく似た施設があるものかと思わせる学者のための一年間滞在の研究機関 Center for Advanced Study in the Behavioral Sciences がある。折日から Fellowship Year で滞在中の中根千枝東大教授のご案内で簡素な木造研究室、さわやかな木造の食堂などを拝見し、きて見てよかったの感を深くし、旅行目的の一つを果たした。

◇まねをしない大学像

約二千といわれるアメリカの大学は一つとして同じ型のものはなく、学生はその中から自分に適した大学を選ぶことができる。大学の特色は独自の教育方針から創造されるものである。特色ある大学こそ彼らの誇るわが母校である。

◇Hospitality

ベン・デルヒルはクエーカー系の大学程度の学寮であるが、私はここで簡素な友愛の生活を体験した。エスター・ローズ老女史邸の旅の休養、ゴルドン・ポールの博士邸を足場にしたご夫妻の案内、ポストン郊外のラインシャーワー博士邸における楽しい晩餐、ワシントン、サンフランシスコにおけるアジア財団の親切な配慮などに支えられ、わが生涯最良の旅は終了した。貴重な旅であった。

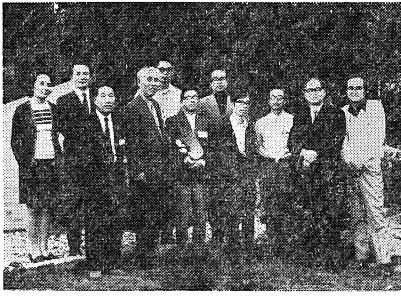
第3回国際学生セミナー

万国博基金とJAFSAの協力で

主題▼アジアの平和と開発ー日本を考える
期日▼昭和48年10月12〜14日

《セクション演習》

- A 現代日本の政治と世論
明治大学助教 渡辺昭夫氏
- B アジアの新しい国際関係と
日本外交
東京外国語大学助教 中嶋嶺雄氏
- C 七〇年代の世界、アジアにおける日本ー日本の経済的役割
成蹊大学教授 広野良吉氏
- D 日本の都市と農村
京都大学助教 米山俊直氏
- E 日本人の外来文化に対する受容と消化ー芸術的側面を中心として
東京国立博物館東洋考古室長 杉山二郎氏



第3回国際学生セミナーの指導にあられた諸先生

- I アジアのリージョナリズムと日本
朝日新聞論説委員 丸山静雄氏
- II アジアー日本の能力
アジア財団日本代表 J・L・スチュアート氏

《運営委員長》

津田塾大学教授 東 寿太郎氏

《運営委員》

早稲田大学外事課長 山代昌希氏

東京大学学生課長補佐 宮川 清氏

津田塾大学講師 江尻美穂子氏

早稲田奉仕園総理事 布施濤雄氏

《参加学生》

- a 国籍別
日本(六一)、オーストラリア(四)、韓国(三)、アフガニスタン、クメール、中国、フィリピン、マレーシア、南アフリカ共和国各一名
- b 大学別
早大(一二)、上智大(一〇)、東外大(九)、慶大(八)、東大(六)、青学大(四)、ICU(四)、明学大(三)、一橋大(二)、成蹊大(二)、独協大(二)、東洋大(二)、東京医科歯科大、東教大、京大、

専修大、中大、東経大、東女大、日女大、立大、大妻女大各一名(二二大学)

国際学生セミナーは、今日までの大学教育にあまり試みられなかった国際交流を目的に、日本万国博覧会記念協会の援助とJAFSA(外国人留学生問題研究会)の協力を得て行なわれ、三回目を迎えた。

このセミナーの主題は、初回以来同様「アジアの平和と開発」であるが、今回は副題として、特に「日本を考える」を揚げた。これはアジアの一員として政治的・経済的・文化的貢献を期待されている日本が、その役割を果たすためには、まず日本が日本自身を客観的に見つめ直すことからはじめなければならない。

津田塾大学教授 東 寿太郎
八王子の丘で開かれる国際学生セミナーは、はやくも三回を数えることになった。そしてそのセミナーを終わって強く感じたことは、関係者の真剣な討議によって定められた「アジアの平和と開発」という主題が意味するものがいかに大切なものであるかということであった。また、それが多くの学生諸君にとっても、簡単に克服できないけれども、セミナーを終わってみると、いかに強い関心を引きつけるテーマであるかということであった。今回は共通の副題として、「日本を考える」というテーマが選ばれ、政治・外

ければならないという認識に基づくもので、日本を諸外国と比較・研究されている先生方の指導の下に東南アジア諸国のほか南アフリカやオーストラリアなどの留学生、そして海外での生活体験を有する者十数名を含む日本人学生が参加して開かれた。

募集期間が短かったため、外国人留学生の参加はあまり多くないのが残念であるが、高校時代にAFS留学生として米国に一年以上滞在したり、あるいは大学を休学して東南アジアやチャベット、インドなどで生活をし、その体験から留学生と日本人学生双方に訴えたいという使命感に燃えて参加した学生の動きが特筆できよう。

津田塾大学教授 東 寿太郎
交・経済・社会・文化に関する五つのセクションが開かれた。私は多くの諸大学のセミナーや大学間セミナーに参加する機会を得てきたが、このセクション演習における学生諸君の熱意と比較すべき例を知らない。

しかしながら、このセミナーが将来、より発展していくために企画運営にあたる人と学生諸君に課題が残された。たとえば、「セミナーの期間について、二泊三日は短かすぎるのではないか」あるいは「自衛隊とか公害とか、もっと具体的なテーマの方がよいのではないか」「外国人留学生の参加比

率が低かった」ことなども指摘できよう。

だが、第一回セミナーの参加者が、アジア学生セミナーを行なうて毎月一回二十数回の研究会をもち、「ROBA」という機関紙を発行、第二回の参加者が機関紙「伝書鳩」を中心として交流を深めているなど、国際学生セミナーは国際学生交流の根強く幅広い基礎と連帯感を作っていることを考えあわせることも必要である。

学生諸君の交歓風景の中に相互理解の芽を見ていた私は、それどのように発展していくかをたのしみに行っている一人である。

東京大学 アラン・リックス
日本の政治と日本の学生についての知識を広げようと思つて第三回国際セミナーに参加することにした。大学セミナー・ハウスは非常に広々とし、気楽なセミナー生活をすることができた。その上セミナーのプログラムがよく考え抜かれていた。

オーストラリア人の私自身の目で見れば、セミナーにオーストラリアのことがあまり出てこなかった。両国の経済関係が強くなるようだから意見交換はふやす方が良くと思う。オーストラリアの将来はアジア、特に日本の将来に依存することになったようだから、日豪間の理解を深めるには大学セミナーハウスと国際学生セミナーの役割と責任が重大だと思ふ。

セミナー・ハウスに集う 利用者グループ点描

●立教大・同志社大 合同ゼミ

一月二四～二七日

この合同ゼミは、関東と関西の持ちまわりの当番で交互に開催しており、今回は四回目。立教大学は社会学部産業関係学科、武沢信一教授と学生三十一名。同志社大学は、文学部社会学科、中条毅教授と学生四〇名。「組織と人間」をテーマに、あらかじめレジュメをつくり、おのおの二名ずつの報告者を出して活発な討論が行なわれた。

親しい友人同士である両教授の間で話が出たのがそもそもものきっかけで、まったく自主的、かつ非公式のゼミであるが、いつも同じ大学のゼミのメンバーではなく、他大学との交流をはかる機会をもつことは、相互に刺激となつて大変よいという参加者の一致した意見のようであった。

理念的な大学交流論はしばしば耳にすることであるが、同一学科もしくは同じ専攻の学生が、二大大学あるいは五大大学といったように集まつてこのような合同ゼミを持

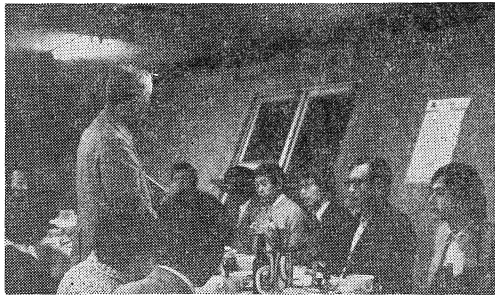
つことは、もっとも手近かな、そして確実な大学間交流であり、セミナー・ハウスをもつとも有効に使用する方法であるといえる。その意味で四回の実績を持つこの合同ゼミを高く評価したいと思う。

●早川先生の著書を読む会 「空間価値論」

の出版を祝して

二月八日

早川和男先生は建設省建築研究所建築経済研究室長の要職にある学究の徒である。昭和四〇年の夏



早川和男先生の出版を祝う集い（食堂にて）

の第40回共同セミナーを担当されたことが機縁となり、第57回、第60回の共同セミナーにもご協力いただき、程の深い関係を持つようになった早川先生が多年の力作を大著「空間価値論」として公刊された。先生は東洋大学や東大でも講師をされているように、若い学生が好きである。共同セミナーで知り合った学生たちが年に数度集まっては研究会を開くというのも早川先生の人柄を示している一面である。

今回著書を発行されたが、各紙の書評も上々で喜ばしい限りである。早川セミナーの有志、中にはすでに社会人となっている者もあるが、いかにも共同セミナーの学生らしく出版を祝して勉強会を催した。すばらしい出版祝賀の集いがこの丘で催された。

お祝い晩餐会には飯田専務理事が出席されお祝いの言葉を述べ、セミナー・ハウスからは花たばを贈呈してその会を飾った。

●英語集会で盛況

二月八～九日

二月八、九日にたまたまかち合わせたのが、関連学生英語会連盟と、日本英語教育改善懇談会である。前者は、関東地区三二大学で構成しているESSの連盟。八名の参加者が熱心に「人間と文明」というテーマのもとで英語による討論を行なった。

後者は大学英語教育学会主催により、全英連、ELCなど英語教育に関係のある一二の団体が代表者を派遣して行なわれた。前回の四七年につづき第二回目の開催であり、討論の中心は「英語教育環境」、「教員の研修」。小川芳男先生のお顔が見えた。

一般に、日本人は外国語に弱いといわれているわけだが、八王子の丘の上は英語教育改善への気運と、そして英語を話す、あるいは話そうと努力している学生の動きにつつまれた二日間であった。

●クリスマスの集い

二月二日

当夜在泊の八つのグループが参加して、クリスマスの集いが業務課の主催で行なわれた。中央大・木内ゼミ、日本女子大・シュイクスピアドラマゼミ、独協大・鹿毛ゼミ、中央大・小林ゼミ、青学大・羽田ゼミ、慶大・渡部ゼミ、杉野女子大・田村ゼミ、東大・岩崎グループで、各グループともぎっしりとおつまつたスケジュールから時間をさいての参加であったが、講堂を会場に食堂が腕をふるつた立食パーティで腹ごしらえをし、それぞれ趣向をこらした歌や寸劇を楽しんだ。中でも、杉野女子大の田村皖司先生が女子学生と一緒に披露されたみごとな社交ダンスは、会場を八分ほど占めていた男子学生の羨望の視線を集めたよう



楽しい交歓——クリスマスの集い（講堂にて）

だった。

キャンドル・サービスには、当ハウスを六年程前から毎年利用されている慶大の渡部一郎先生に親火を点火していただき、職員・飯田能子が感話として「私のクリスマスの思い出」を語り、八王子の丘でたまたま居合わせた一四〇名の若人が讃美歌をうたい静かな一時をもつた。

クリスマス献金として総額一五、〇〇〇円が参加者から寄せられ、二四日のイヴに、同じ多摩の丘にある重症心身障害児の施設、島田療育園の子どもたちに届けられた。

千人会 善意の連帯 昭和49年1月31日現在 会員数 八四六名 (大学人 二六六四名、一般社会人 一八二名)

千人会の支持層拡大する

八王子の代表的市民が入会
八王子市長後藤聰一氏、市議会議長上保広吉氏、同副議長長里静子氏が右田病院長松本樺太先生のご紹介で入会された。すばらしいお年玉である。こうして地元の八王子と年毎に結びつきが強くなつていくことは、セミナー・ハウスが八王子に根を下したということである。

共同セミナー参加学生

在学中にここ多摩の丘を上げる学生は多い。国公私立各大学のゼミナールの学生が大部分であるが、セミナー・ハウスとの深いかわりを持つのはなんとといっても、共同セミナーに参加したことのある学生である。ここに力点をおけば、おくだけその成果のほどが現われる。もっともよくそのことを証明してくれるのが、卒業後就職して、一、二年のうちに千人会の会員になってくれることである。現在一九名の卒業生が会員となっている。

今回会員になって下さった大橋

万知江さんも東京学芸大物理学科を昨年三月卒業し、現在富士通に勤務されているが、共同セミナー参加者であった。彼女の手紙は次のように感想を述べている。

「私は昭和四八年一月第53回共

は実数に意味があるので、どうか新会員をご紹介下さい。来年の開館十周年の祭壇に千人の名簿を捧げたいものと切に祈っています。

一、前田陽一、馬場明男、岡本定次、三輪光雄、祖父江孝男、示村悦二郎、高野雄一、外池孝雄、飯野利夫、森繁雄、宇野義方、山下幸夫、松元文子、安藤瑞夫、伊藤修、田中外次、齊川仁、山科高康、玉蟲文一、高橋三郎、笹島恒輔、友部直、福田隆義、大須賀節雄、内田章五、齊藤忠利、末永国明、増田義男、阪田正三、江河徹、吉沢英子、水野伝一、田村光三、飯島宗亨、大地羊三、谷重雄、細田友雄、坂口順治、笠井貴征、中富光国、清水誠、笠原正成、川添利幸、市川節子、田村皖司、岩崎代志治、三戸公、西巻正郎、バックス・ジャン、茅伊登子、茂木誠隆、西田亀久夫、関口実、手塚富雄、清水啓三郎、伯東株式会社、大内英吾、小穴純、岩尾裕純、山田潤二、山本満、池田温、佐島秀夫、栢野晴夫、岡惺治、広瀬一彦、高橋正男、伊藤文人、齊藤信房、内藤正、有山正孝、末松安晴、安味卓正、福島杉夫、中尾由矩子、浜川祥枝、来住正三、内田芳明、三井為友、大塩俊介、塚本利明、三浦永光、竹内啓一、杉山好、高橋恒郎、宮川松男、谷清、天野成光、衛藤藩吉、太田敬三、中鉢正美、石井不二雄、竹中肇、東川清一、高山利勝、釜范善一、武者小路公秀、桑原哲郎、杉山吉茂

新しく会員となられた方々

【第22回報告(申込順)】

- C 拓殖大学助教 広瀬一彦殿
- B 早稲田大学教授 田村恭殿
- C 法政大学教授 石川淳志殿
- C 千葉大学教授 浅野弥祐殿
- C 藤倉電線勤務 飯野和彦殿
- B 元セミナー・ハウス職員 木村敏美殿
- C 東洋大学講師 早川和男殿
- B 八王子市長 後藤聰一殿
- C 法政大学教授 西村閑也殿

- C 青山学院大学助教 岸英朗殿
- C 横浜国立大学助教 小川捷之殿
- C 富士通勤務 大橋万知江殿
- C 八王子市議会副議長 長里静子殿
- C 八王子市議会議長 上保広吉殿
- C 東京外国語大学助教 齊藤恵彦殿

会費ありがとうございました

昭和四八年一〇月～二月(敬称略)

今井淳、泉治典、山口喬

- 大須賀政夫、田村恭、坂本義和、石川吉右衛門、森恭三、江尻美穂子、北沢佐雄、弓削三男、石川淳志、布施清雄、中島斌雄、松田稔子、久我雅夫、冲中重雄、加藤一郎、坂野親司、川原栄峰、佐原六郎、天利長三、植林博太郎、小田中敏男、武藤俊之助、伏見弘、田村献、野田良之、関本昌秀、加藤五六、荒川幾男、板垣與一、尾形憲、鶴岡義一、岩下秀男、森岡清美、山本大二郎、森田信義、東寿太郎、宇野重昭、藤永保、重田信一、神山妙子、小川芳男、安達義明、小堀桂一郎、坂本清

- 宇都木章、永井晃子、多賀義高、松延博、大村政男、山崎真秀、永沢越郎、小林善彦、大竹誠、木村富夫、鈴木喬、安藤良雄、安達健、横山宏、角倉一朗、森井真、磯部浩一、戸塚元吉、石川正一、満尾寿男、宮川透、加藤栄一、小河原正己、宮崎繁樹、堀信一、清水護、井門富二夫、角尾稔、助盛晴、吉武泰水、木村敏美、飯田八千代、飯田能子、飯田恵、江副敏生、千葉正士、奥繁光、宮本勉、市川孝正、新井益太郎、江上不二夫、木村久男、金田品二、勝木保次、松本樺太、白井常、岩浅武雄、杉沢新

悦二郎、高野雄一、外池孝雄、飯野利夫、森繁雄、宇野義方、山下幸夫、松元文子、安藤瑞夫、伊藤修、田中外次、齊川仁、山科高康、玉蟲文一、高橋三郎、笹島恒輔、友部直、福田隆義、大須賀節雄、内田章五、齊藤忠利、末永国明、増田義男、阪田正三、江河徹、吉沢英子、水野伝一、田村光三、飯島宗亨、大地羊三、谷重雄、細田友雄、坂口順治、笠井貴征、中富光国、清水誠、笠原正成、川添利幸、市川節子、田村皖司、岩崎代志治、三戸公、西巻正郎、バックス・ジャン、茅伊登子、茂木誠隆、西田亀久夫、関口実、手塚富雄、清水啓三郎、伯東株式会社、大内英吾、小穴純、岩尾裕純、山田潤二、山本満、池田温、佐島秀夫、栢野晴夫、岡惺治、広瀬一彦、高橋正男、伊藤文人、齊藤信房、内藤正、有山正孝、末松安晴、安味卓正、福島杉夫、中尾由矩子、浜川祥枝、来住正三、内田芳明、三井為友、大塩俊介、塚本利明、三浦永光、竹内啓一、杉山好、高橋恒郎、宮川松男、谷清、天野成光、衛藤藩吉、太田敬三、中鉢正美、石井不二雄、竹中肇、東川清一、高山利勝、釜范善一、武者小路公秀、桑原哲郎、杉山吉茂

第62回大学共同セミナー

主題 ■ 現代資本主義の諸問題
期日 ■ 昭和48年11月30日～12月2日

《全体講義》

現代資本主義とインフレーション

中央大学教授 川口 弘氏

現代資本主義の全体認識に向けて

—米英の論議を中心に—

中央大学教授 宮崎厚一氏

《セクション演習》

A 寡占

神奈川大学教授 石崎昭彦氏

B 現代資本主義とインフレーション

大阪市立大学助教授 磯村隆文氏

C 現代資本主義における福祉をめぐって—社会保障、社会福祉の問題

今年度、共同セミナー委員になった柏崎、川鍋、西村の三先生は専攻が経済学で、また学会などでお知合いの間柄である。委員会では、さっそく運営委員をお願いし、早くから企画を進めてきた。

全体講義では、国民を脅かしている物価問題を、川口先生は資本主義とインフレーション発生のメカニズムとの関連で、また宮崎先生は、欧米で、この問題がどのように扱われているか具体的な例を

引いて講義された。

第二日目は午後から野外集会所のオープニングの催しがあるなど充実したスケジュールであった。

最終日、大阪からこられた磯村

先生は、「まったく知らない人間が集まり、短期間に通常、自分の大学で行なっている演習以上の成果があったと評価する」という講評を学生にされた。

お茶の水女大(三)、日女大(三)、実践女大(三)、東教大(二)、慶大(二)、立大(二)、上智大、成蹊大、津田塾大、東海大各一名(一五大学)

高校教員(二)、都立蔵前工業高校、松山高校各一名

かつて島田先生の古希記念セミナーが昭和46年3月に、教子に当たたる小堀、芳賀、平川先生を世に行なわれた。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。



第62回大学共同セミナーを終えて(ようこそ広場にて)

第63回大学共同セミナー

主題 ■ 日本文学の新しい研究法—比較文学の視点から
期日 ■ 昭和48年12月14～16日

《全体講義》

日本における比較文学研究について

東洋大学教授 島田謹二氏

《分科会と話題提供者》

分科会A 「近世以前の日本文学」

秋の夕暮—日本の詩歌における情趣の類型化—

東京大学講師 川本皓嗣氏

日曜日の世紀—蕪村の俳諧とその時代—

東京大学助教授 芳賀 徹氏

イギリス小説と江戸小説—「パミラ」と「梅暦」

立教大学助教授 前田 愛氏

分科会B 「近代の日本文学」

日本近代詩と西洋詩—特に英米詩の移入をめぐって

東京大学助教授 亀井俊介氏

自然主義とその反動をめぐる諸問題

東京大学助教授 小堀桂一郎氏

《運営委員長》

《参加者》四七名、学生(四五名)

東洋大(九)、東大(六)、早大(四)、鶴見大(四)、東学大(三)、

先生は、「まったく知らない人間が集まり、短期間に通常、自分の大学で行なっている演習以上の成果があったと評価する」という講評を学生にされた。

お茶の水女大(三)、日女大(三)、実践女大(三)、東教大(二)、慶大(二)、立大(二)、上智大、成蹊大、津田塾大、東海大各一名(一五大学)

高校教員(二)、都立蔵前工業高校、松山高校各一名

かつて島田先生の古希記念セミナーが昭和46年3月に、教子に当たたる小堀、芳賀、平川先生を世に行なわれた。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

このセミナーでは、学生以外の国文学研究に携わる人々の参加も求めて行なわれたが、高校の先生方は期末試験と重なった等の理由で出席者は少なく、小堀運営委員長を残念がらせていた。反面、シンポジウムなどで成果が予想以上であったと参加者一同が大いに満足したセミナーであった。

第64回大学共同セミナー

主題 ■ 新時代を迎える国連
期日 ■ 昭和49年1月11～13日

《全体講義》

国連の28年—国連の当面する課題

東京大学教授 高野雄一氏

《セクション演習》

A 地域の平和維持機構と集团的自衛権—「ラテン・アメリカの危機」の意味

東京大学教授 高野雄一氏

B 国連の安全保障機能—国連軍

法政大学教授 杉山茂雄氏

C 日本と国連

外務省国連局政治課長 小和田恒氏

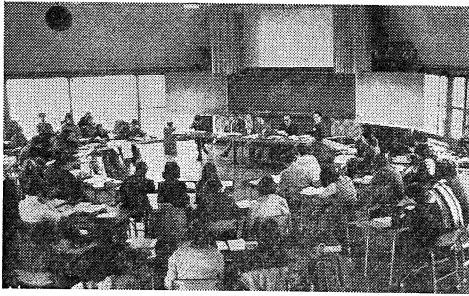
D 非植民地化をめぐる政治と法理

東京外語大助教授 斎藤恵彦氏

E 国際的人権と国連

明治大学教授 宮崎繁樹氏

F 開発と国連—開発における多



国連セミナー全体討議風景

国間協力のあり方の再検討
国際基督教大学助教

横田洋三氏
(運営委員)

《参加学生》

六二名(うち女子二二名)
ICU(一六)、津田塾大(九)、

■初めての国連セミナー
に参加して

最近の国連大学誘致運動にも端的に示されるように、日本人の国連に対する一般的関心は諸外国に比べても特に強い方だといえる。しかし一歩つっこんで一般国民が、あの複雑な国連の組織と活動をどのくらい正確に理解し、把握しているかという点、これはなかなか疑問だといえよう。

今回のセミナーは、国際情勢の変化に対応してその組織を次第に

東外大(七)、東大(四)、一橋大(四)、慶大(三)、独協大(三)、明大(二)、青学大(二)、立大(二)、東経大(二)、東北大、東学大、日大、早大、東女大、中大、日女大、学習院大各一名(一九大学)

国際基督教大学助教 横田 洋三

拡大し、活動の範囲を大きく広げてきた過去二九年間の国連の歴史をふり返り、国連の現状に対する認識と理解を深め、これからの国際社会における国連の役割を、次代を担う若い人たちがともに考えることを目的とするものであった。それは、今日の国際社会が、西欧中心から全人類中心へ、政治中心から人間中心へ、力中心から福祉中心へと大きく転換を遂げつつある中で、大きくいえば地球規模の組織をもち活動を行なうほとんど唯一の機構である国連の役割が、現在ほもろろん、今後いっそう重要になるという認識が私たちにあったからである。

さいわい、この主旨に共鳴する多数の熱心な学生が、冬休み直後、学年末試験直前という多忙な時期にもかかわらず、厳冬の八王子に集まって活発に議論に参加してくれた。

創立以来の国連の足跡を要領よくまとめ、セクションごとのテーマの相互の関係にも言及されて、セクション演習のよい導入部とも

なった高野先生の全体講義(要旨は本紙1頁参照)と、ニューヨークやジュネーブにある国連事務局の活動の実際を生き生きと紹介してくれた映画「平和のために働く」によって、セミナーは最初からまとまりと盛り上がりを見せた。

さらにセクション演習では、前記の高野先生をはじめ外務省で国連関係の責任ある職務を担当してこられた小和田恒課長、国連軍などの研究で第一線をいかれる杉山茂雄先生、人権問題に関するわが国の権威でおられる宮崎繁樹先生、国連法務局でアバルト・ヘイト問題を中心に実務を担当し、最近戻られた斎藤恵彦先生というよう

に、各テーマで得られる最高の方を講師としてお迎えできたことは大変幸運であった。最後の全体集会で行なわれたセクションごとの報告の内容からいって、各セクションでの議論も、きわめて充実したものであったということがで

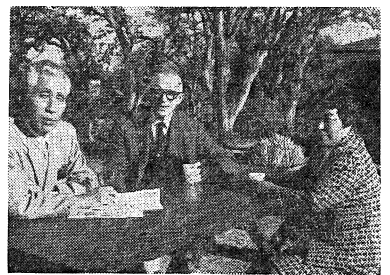
きる。日本人の国連に対する一般的関心を育て、それをさらに理解から行動へと高めるためにも、このような国連をテーマとしたセミナーを、今回限りとせず、毎年継続して開けたらよいのではないかと、このセミナーに参加した私の個人的感想である。その時期は、一〇月二四日の「国連デー」前後がよいように思う。

大学共同セミナー

主題 人間・企業・消費—生活者とともに—
期日 昭和48年11月16~18日

《発題と演習》

- 1 企業環境はどう変わるか—これからの企業
慶応義塾大学教授 青沼吉松氏
- 2 企業は消費者を如何に捉えるか
日本マーケティング・システムズ代表取締役 鳥居直隆氏
- 3 消費者は企業を如何にして告発するか
日本消費者連盟代表委員 竹内直一氏
- 4 企業における集団・組織の創造性の開発
東洋大学教授 恩田 彰氏
- 5 テクノロジー・アセスメントの可能性と限界(ケース・スタディ)
中央公論社「経営問題」編集部 正慶 孝氏
- 6 消費者行動の諸問題—心理学的側面より
亜細亜大学助教 馬場房子氏
- 7 企業の社会的貢献度の測定



行動科学高等研究所副所長と中根千枝東大教授(飯田専務理事の米国視察アルバムより)

日本大学教授 名東孝二氏
《運営委員長》
日本大学教授 名東孝二氏
《運営委員》
創価大学助教 三森茂郎氏
日本実践経営学会指導講師 小沼徹雄氏

《参加学生》

二七名(うち女子四名)
日大(一七)、慶大(四)、立大(二)、東経大、電通大、東洋大、東学大各一名(七大学)

【主題の主旨】

「今、企業環境はめまぐるしく変化し、従来の思考方法では企業の再生、ならびに生活者の生き方はまったく不可能となってきた。公害問題の激化、消費者運動の抬頭などがこれを端的に物語っている。この激動の時にあたって真剣に人間・企業・消費の問題を考え、企業が問われている社会責任を明らかにし、再生の道を考えたい。」

業務通信

例年一〇月にはいると前期試験などの関係から学生の利用率が減り、一般社会人の利用が多くなる。

セミナー・ハウス本来の姿からいうと感心しないが、社会人の研修等にも便宜を与えることにしている。とくに一〇月は非会員校の利用が大変少なく、わずかに一二%である。どんどん利用していただきたい。

セミナーの丘で俳句会を催すことは題材が多くおもしろい。一月の風の強い日であった。元東洋大学、石橋弘毅先生の指導する国立市の人々の句会がこの丘で行なわれ、多くの名句がでた。その中の一つ二つをご披露しよう。

山さびて零余子(むかこ)こぼるるばかりなり
梅雨



もちつき風景 (キャンプファイヤー・サイトにて)

かやばしや宮城野萩の返り花
山茶花や白き壁もつ宿舎群
照子

立教大学と同志社大学の共同ゼミが行なわれたことは他の記事にゆずるとして、いつもながらのこのセミナー・ハウスで行なわれる美しい交歓の風景を一つ紹介しよう。

クリスマスイブの日、日本大学棟沢ゼミは、自分たちだけでイブを楽しむ計画であったが、他の学生も招待したいということで、食堂でささやかではあったが楽しい招待パーティが行なわれた。心のあたたまる交歓風景はセミナーの丘ならではの見られない。

一二月は二八日で終わり、最後の日は餅つき大会を行なうというので、キャンプファイヤーの広場に餅つき風景が現出した。

セミナー・ハウス創立以来なかったほほえましい野外昼食パーティとなった。一二時ごろ、ぼつぼつゼミの学生が集まり、腕におぼえのある人々が飛び入りでキネを持って、できたての餅を腹いっぱい食べて歓談したが、女子学生も二、三人交えてキネをつき盛會裡に解散した。

年末から急騰しはじめた物価高に対応して、当セミナー・ハウスも対策に苦慮していたが、会員校の学生にはなんとしても負担をか

けない方針を立て、一般社会人非会員校の方々には心苦しいが一〇%の特別料金をお願いすることにした。この暫定料金は三月まで四月からは料金を改訂したい。ただし会員校は据え置きのものである。

暖房についてもご協力をお願いしているが、なんとか春までの見通しもついたので、宿泊者には寒い思いをさせないで済みそうである。ご安心の上お出でいただきたい。

利用状況

10月

スリーポンド(協会)社研修
東京女子大学講師 宮崎 犀一
日野自動車販売(株)

セールスマン教育

東京学芸大学助教 羽鳥 博愛

東京女子大学歴史同好会

東京女子大学教授 栗原 福也

ディー・ケイ・シー(株)社員研修

明治学院大学助教 増田 茂樹

東京都立大学教授 森 重敏

順天堂大学医学部附属順天堂医院
院長 小酒井 望

成蹊大学講師 古軸 隆介

東京大学助手 原島 圭二

専修大学教授 萩原 稔

日野自動車販売(株)

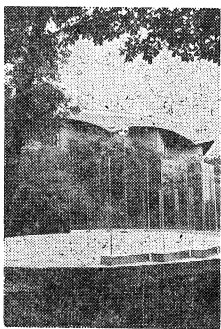
セールスマン教育

セールスマン教育

● 野外ステージで劇や音楽をどうぞ ●
野外集会場の竣工祝い当日の模様は3頁に掲載のとおりであるが、雑木林の中のステージは周囲の自然と調和して、セミナーの丘にまた一つの名所を加えた。設計にあたって

U 研究室 岡本慎子

野外集会場の建設予定地は二、三あったが、セミナー・ハウス建設の当初の全体計画にも既にその案が見られるように、講堂と教師館にはさまれた斜面が、他の建物との配置の関係や地形の具合など最適であった。この斜面は、そのまま観客席になるので栗、橘、櫻の雑木林はできる限り残しその間に五〇脚のベンチを据えた。ステージは観客席の延長の空間



として、三〇坪ほどの楕円のスラブが、下方の林から浮かび上がり斜面に張り出す恰好にした。スラブには、日本・イタリヤ・ソ連・イランの大理石を切り出したまま磨き上げずに敷き込んだ。ステージのバックにはガラスのスクリーンを立てたが、屏風のように並ぶガラスにステージの人物が映り、夜などは虚像、実像が入り乱れ幻想的な効果を生むのではないだろうか。

そして、この集会場は春夏秋冬、朝昼晩、その時々良さがあふれるので、野外劇や音楽を楽しんでいただくことはもちろんのこと、オープン・エアの大セミナーの場としたり、コヒープレイクのまどいなどにもどしどし活用してほしいものである。

総工費 一、〇〇〇万円
開館七周年記念募金 七六万円
日本自転車振興会補助金 三三万円
千人会(造園) 三〇万円

セールス・ミーティング

東京大学哲学研究会 上村 悦子

日本女子大学教授 塚田 理

立教大学教授 塚田 理

東京多摩花王販売(株)

セールス研修会

東京医科大学講師 玉野井昌夫

八王子大丸社員研修(株)

東京大学助教 鈴木 博

関東工業教育協会
秋季特別研究集会
京浜協力会修養会 橋口 英俊
東京家政大学講師 笠 耐
上智大学講師 笠 耐
日本ウィックス(株)社内研修会
立川スプリング(株)管理者研修会
東京大学助教 鈴木 博
横河ヒューレット・パッカー(株)



お別れパーティー(国連セミナー)

法政大学講師 武者 英二
 電気通信大学教授 大須賀政夫
 東京学芸大学助教授 新井秀一郎
 読売情報開発センター
 販売促進研修会

セールスマン教育

日野自動車販売(株)
 フジタ工業(株)社内研修
 東京大学教授 工藤 篁
 立教大学教授 三宅 義夫
 スリーポンド(株)女子社員研修
 法政大学助教授 小林 清人
 第三回国際学生セミナー
 スリーポンド(株)周知徹底委員会

東京学芸大学助教授 阿部 猛
 東京外国語大学教授 鈴木 幸寿
 早稲田大学教授 田村 恭
 品川区立産業文化センター

東京都立商科短期大学助教授 運営委員会
 仲本 章夫

東京家政学院大学教授 永沢 幸七
 東京学芸大学講師 林 一郎
 成蹊大学教授 佐々木克巳

立教大学教授 三戸 公
 明治大学書道研究部
 早稲田大学
 ジャパン・インター・カレッジ
 立正大学教授 杉沢 新一
 常盤台パブテスト教会
 兄弟会修養会

兄弟会修養会

日野協力会工職長研修会
 西武建設(株)社員研修会
 専修大学助教授 八田 知成
 慶応義塾大学教授 生田 正輝
 法政大学教授 石川 淳志
 お茶の水女子大学教授 亀谷 俊司

法政大学経済学研究会
 東京工業大学教授 松田 武彦
 東京芝浦電気(株)府中工場
 管理者研修
 東京都立大学助教授 奥口 孝二
 一橋大学助教授 中村 政則
 明治学院大学教授 倉地 幹三
 中央大学講師 沖野 安春
 明治学院大学教授 大島 貞夫
 中央大学教授 石黒 鉄郎
 東京大学教授 岡 義達
 東京家政大学講師 橋口 英俊
 (社)日本機械学会関東学生会
 東京学芸大学教授 永野 賢
 東京大学教授 大森 莊蔵
 国際商科大学教授 萩原 稔
 白百合学園高等学校 鈴木 和子
 東京都立大学教授 近藤 正春
 東京都立大学教授 丸山 洋一
 伊勢丹労働組合
 役員ユニオン・スクール
 上智大学E.S.S
 慶応義塾大学助教授 深海 博明

明治屋(株)社員研修
 東京女子大学講師 北沢 佐雄
 パキスタン・クエタ大学
 S・M・シャイ
 上智大学教授 鈴木 皇
 東京都立大学助手 中島 平三
 明星大学助手 井上 一正
 慶応義塾大学講師 中込 昌孝
 法政大学助教授 麻生 宗由

◆11月

八王子大丸(株)社員研修
 順天堂大学教授 大村 治子
 横浜国立大学助教授 平出 彦仁
 明星大学講師 安井 将文
 東京都立大学教授 山本三三三
 上智大学E.S.S
 武蔵工業大学助教授 桑原 哲郎
 大妻女子大学E.S.S
 法政大学教授 渡辺 佐平
 東洋大学講師 小椋 康宏
 放電セミナー学会
 全国私立保育園連盟
 第四回中堅保母研究会
 日本国際学生協会東京支部
 早稲田大学教授 浦田 賢治
 慶応義塾大学助教授 山岸 健
 中央大学教授 宮崎 犀一
 電気通信大学講師 萩原洋太郎
 学習院大学教授 児玉 久雄
 明治学院大学教授 和田 昌衛
 読売情報開発センター
 販売促進部員研修会
 日野自動車工業(株)日野副長研修
 東京神学大学教授 佐藤 敏夫
 日本水産(株)食品加工部社内研修会
 東京都立大学教授 大羽 滋

東京農工大学教授 村崎 憲雄
 慶応義塾大学助教授 深海 博明
 三愛会レク・リーダー研修会
 成蹊大学教授 朝倉 孝吉
 慶応義塾大学
 フランス語会演劇練習
 日本女子大学附属高校
 久野 義雄
 東京経済大学教授 色川 大吉
 東京都立大学教授 竹内 幹敏
 早稲田大学教授 清水 望
 文部省特定研究環境汚染制御
 早稲田大学講師 鈴木 二郎
 中央大学教授 村田 稔
 慶応義塾大学助教授 浅井慶三郎
 東京都立大学助教授 関口 晃
 住友スリーエム(株)
 明治学院大学教授 神保 信一
 高千穂商科大学 萩原 稔
 東洋大学教授 泉 治典
 日本大学講師 二宮 泰臣
 東京大学助教授 鈴木 基之
 トップ・ムーア(株)社説明会
 大学共同セミナー
 明治学院大学教授 三和 治
 早稲田大学講師 奥田 義雄
 Y.M.C.A.研究所
 主事養成秋季コース中間総括
 小西六写真工業(株)八王子工場
 産業研修
 日本実践経営学会 名東 孝二
 職業訓練大学助教授 安江 節夫
 東京都立大学教授 千葉 正士
 明治大学文学部セミナー協議会
 東京都立大学教授 泉 三義
 東京農工大学助手 高島 米司
 東京都共済連職員教育研修

東京義塾大学教授 峯村 信吉
 電気学会絶縁材料セミナー
 慶応義塾大学教授 加藤 寛
 多摩中央信用金庫研修
 日本小児神経学研究会
 第三回小児神経学セミナー
 日本大学助教授 向坂 寛
 ポーイスカウト東京連盟
 指導者研修
 大学セミナー・ハウス
 元奉仕グループ
 福音主義医療関係者協議会
 黒住 一昌
 東京都立大学教授 北村 博
 一橋大学教授 鈴木 秀勇
 立教大学教授 沢木 敬郎
 立教大学教授 武沢 信一
 京王プラザホテル英語クラブ
 中央大学通信教育部
 東京都立大学教授 寺沢 恒信
 東京都立大学助教授 一丸 節夫
 早稲田大学教授 市川 孝正
 立教大学教授 牛窪 浩
 武蔵野電気通信研究所
 研究管理者訓練
 細谷 俊夫
 立教大学教授 岩瀬 方子
 第六二回大学共同セミナー
 東京都立大学助手 清水 誠
 東京都立大学助教授 神品 光弘
 電気通信大学助手 高田 清朗
 青山学院大学教授 神山 妙子
 明治学院大学助教授 高野 史郎
 アーサー・アンダーセン
 会計事務所
 東京都議会
 福生幼稚園教諭読書会

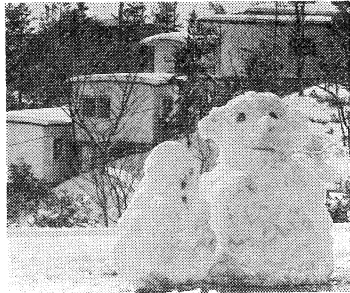
東洋大学俳句の会

◆ 12 月

- 慶応義塾大学教授 生田 正輝
- 青山学院高等部修養会 長谷川昭彦
- 明治大学教授 宮崎 犀一
- 中央大学教授 清水 英夫
- 青山学院大学教授 清水 英夫
- 上智大学 E.S.S 安藤 瑞夫
- 立教大学教授 榎井 常喜
- 東京都立大学教授 小田中聡樹
- 東京都立大学助教授 依光 正哲
- 一橋大学講師 神保 信一
- 明治学院大学教授 玉野井昌夫
- 東京医科歯科大学講師 大橋 泰二
- 立教大学助教授 亀山 潔
- 国士館大学助教授 榎ヤシカ管理者研修
- 国際連合学生連盟研修 金沢 孝文
- 東京都立大学教授 上野自動車工業(株)社員研修 吉田 裕
- 日野自動車工業(株)社員研修 上智大学教授 増田 茂樹
- 明治学院大学助教授 増田 茂樹
- 大学英语教育学会 色川 大吉
- 東京経済大学教授 中尾 清秋
- 関東学生英語会連盟 川原 栄峰
- 東京都立大学 体育会リーダーズ・キャンプ 林田 侃
- 早稲田大学教授 早稲田大学教授 早稲田大学教授 早稲田大学教授
- お茶の水女子大学教授 矢作吉之助
- 早稲田大学教授 染谷恭次郎
- 早稲田大学教授 矢作吉之助
- 国際基督教大学助教授 成蹊大学助教授

G o r s h K o f f
キャタピラー三菱(株) セールスマン教育

- 東京工業大学教授 阿武 芳朗
- 日本学生経営学研究連盟研究会 一橋大学教授 小泉 明
- 東京都立工科短期大学教授 小田中敏男
- 東京都立大学教授 内藤 謙
- 明治学院大学助教授 高野 史郎
- 東京都立大学助教授 矢沢 大二
- 東京都立大学助教授 北川 修
- 白梅学園短期大学講師 羽仁 協子



春雪点描 (あるゼミの作品)

- 法政大学助教授 野林 正路
- 明治大学教授 祖父江孝男
- 法政大学教授 三浦 徳弘
- 一橋大学教授 地田 知平
- 第三回大学共同セミナー 関東学院大学大学院教授 高島 善哉
- 早稲田大学教授 大頭 仁
- 中央大学教授 川添 利幸
- (株)スリーポンド・イクトシ研修会 岸 英朗
- 青山学院大学助教授 佐藤 庸
- 成蹊大学助教授 佐藤 庸

- 中央大学助教授 木内 宣彦
- 立教大学教授 野田 一夫
- 武蔵工業大学教授 西野 忠
- 立正大学助教授 斎藤 昌男
- 中央大学助教授 小林 昇
- 日本女子大学教授 徳末 愛子
- 独協大学教授 鹿毛 誠
- 慶応義塾大学教授 渡部 一郎
- 慶応義塾大学助教授 岩崎代志治
- 東京大学助手 小西六写真工業(株)八王子工場 羽田 三郎
- 青山学院大学教授 榎本 肇
- 東京工業大学教授 磯見 辰典
- 上智大学教授 早稲田大学教授 伊東 克彦
- 早稲田大学教授 横浜国立大学助教授 小川 捷之
- 立教大学教授 三戸 公
- 桑沢学園桑沢デザイン研究所 杉野女子大学教授 田村 皖司
- 法政大学教授 中川 作一
- 中央大学教授 結沢 成男
- 日本女子大学助教授 榊沢 芳雄
- 白梅学園短期大学 田中 未来
- 慶応義塾大学教授 佐藤 豪
- 文学教育研究者集団 熊谷 孝
- 日本クリスチャン インスティテュート 一橋大学鴨ゼミナール 森 彰
- 青山学院大学講師 青山学院大学教授 神山 妙子
- 日本女子大学教授 一番ヶ瀬康子
- 一橋大学助教授 海老坂 武
- 東洋大学講師 早川 和男
- 東京学芸大学名誉教授 松原 元一
- 青山学院大学教授 羽田 三郎
- 東洋大学教授 八木 江里

● 専務理事ノート

迎春報祈 研家弥栄

右は坂口謹一郎先生からいただいた賀状の文句です。目をみはるような達筆です。セミナー・ハウスの栄えを祈って下さるお気持ちに対し感謝しながら、じっとこの書を眺めました。セミナー・ハウスを研家と訳されたのはさすがです。先生の創造語だと思えます。英語の足りない文意を漢語が補ってくれます。

年毎に新しい友人の賀状が加わります。セミナー・ハウスの年輪を示すようなものです。

私は例年のごとく松下館の屋上で真理の鐘をついて歳を送り、開館九年目の正月を多摩の丘で迎えました。星空の下、寒い空気の中で、私は除夜の鐘をついてから構内を一巡しました。誰れ彼れの思い出多い記念樹も、いつの間にか大きくなったので、しばしただずむこともありました。どの建物にもいたわりの手をふれてみました。そっと語りかけました。

新年早々に「東南アジアで排斥される日本」が世界の中に紹介されました。昨日まで高度経済成長を礼讃していた日本の姿が反省させられます。日本がアジア諸国と共存するためには、「平和と開発」に対する次元の高い哲学が必要で

あるという見地に立って、大学ゼミナー・ハウスは日本万国博基金の補助を仰いで、昭和四十六年度から「アジアの平和と開発」を主題とする国際学生ゼミナーを開始しました。現地の感情を無視した日本企業の進出が非難されるようになったからであります。小さい試みでしたが、アジア諸国からきている留学生にとっても、日本の学生にとっても相互理解を深める国際交流の体験の場となっているように思います。日本人を国際的人間に育てるためには、どんなに努力しても努力しすぎることはないでしょう。

私は昨年の二度の旅行で世界の大学の実態——伝統と特色を生かしながら社会の変態に対応した姿で発展している——にふれることができました。ヨーロッパの大学の歴史の重みを知りました。ヨーロッパの大学では国境が接しているために諸国民の国際的感情が豊かであることを、アメリカの大学では人種問題をかかえたアメリカの教育プログラムの多様性を知りました。国際的環境に乏しい日本では欧米では試みられたことのない新しい着想が必要であることを痛感しました。さもないと日本人はアジアの人々とともに世界の運命を考えるような国際的感覚を育てることができないと思います。人をもてなす心 (Hospitality) の修練をつみたいものです。それが私の外国旅行の体験です。